

## 擦式アルコール手指消毒薬の使用遵守率向上による細菌分離率の低下

### 1.研究の対象

2014年4月から2017年3月までに対象となる菌（Methicilin-resistant *Staphylococcus aureus* : MRSA、セラチア菌、基質特異性拡張型 $\beta$ ラクタマーゼ（Extended spectrum  $\beta$ -lactamases : ESBL）産生大腸菌）が検出された患者2729名を対象としています。

### 2.研究目的・方法

感染制御チーム（ICT）において、院内感染防止対策として手指消毒遵守率の向上に取り組み、手指消毒薬の使用量の変化および各種菌の分離率の関連性を検討することを目的とし、患者毎の培養データを後ろ向きに調査し、課題を見出します。

### 3.研究に用いる情報の種類

MRSA、セラチア菌、ESBL産生菌が検出された患者の培養データ

### 4.外部への情報の提供

研究結果は学会等で発表を予定していますが、登録された患者の個人情報個人が特定できないよう匿名化し、パスワードをかけて厳重に管理されます。

### 5.研究組織

研究機関名：済生会横浜市南部病院

研究責任者：薬剤部 村田 明子

### 6. お問い合わせ

本研究への照会および研究への利用を拒否する場合は下記までご連絡ください。

病院代表：045-832-1111

担当者：薬剤部 村田 明子